

2022年度イラン短期研修プログラム報告書

上智大学総合グローバル学部総合グローバル学科4年

1. 研修の概要

2023年2月23日から3月6日まで、イラン短期研修プログラムに参加する機会をいただいた。当プログラムの前半では、受入機関であるイラン国際学院（SIR）の教授による講義をはじめとし、イラン国立博物館やイスラム革命・聖戦博物館、在イラン日本大使館や官庁への訪問をおこなった。また後半は、イランの地方都市であるイスファハーンやカーシャーンなどを視察した。前半ではイランの外交や歴史を学ぶことができ、後半はイランの文化や伝統を肌で感じるができるプログラム構成だった。当報告書では、私自身が抱いた所感を、「ジェンダー」と「イラン人の他国に対する意識」という2点から述べたいと思う。

2. ジェンダーへの認識

イラン渡航前に女性は必ずヒジャブを着用しなければならないことや、お尻の隠れる服装を着用しなければならないことなどを聞いたことからイランでは、ジェンダーに対する意識が日本や西洋の国々とは異なっているのではないかと考えていた。実際にこれらは国が義務づけていることでもある。しかしながら実際に訪れてみると、若い世代や都市部を中心にスカーフに対する意識は変化しつつあることを感じた。例えば首都のテヘランでは、数は少ないものの、スカーフを着用していない女性も見ることができた。また、20代後半のイランの方にヒジャブに対する認識を尋ねた時には、「人々の個人の選択であるべきであると思う」と言っていた。他方、カーシャーンやバルザネ、イスファハーンなどの地方都市では、スカーフを被っていない女性は見ることができず、そのような地方都市では、体全体を覆うイランの伝統的な衣服であるチャードルを被った女性も首都と比較すると頻繁に見受けられた。つまり、首都を中心に、ヒジャブへの認識は政府と市民でギャップが生じつつあるのだと理解した。

また、ジェンダーに対する政府の認識が西洋の国々と異なっていることも、実際に政府関係者と対話することを通して感じとることができた。イラン・イスラム共和国中央銀行で面談する機会があり、その中で職員のプレゼンテーションをもとにした質疑応答のセッションがあった。その際、男女で失業率が約2倍異なることに対する政府の考え

について質問した。その回答は「イランの文化的に女性は家で働くことを好むと認識している」というものだった。私自身、アメリカやフランスに長期留学をした経験があるため、そのような政府の認識には驚いたと同時に、国によって考え方が非常に異なることは興味深くもあった。以上のように、イランにおける、ジェンダーに対する政府と市民の認識の差を肌で感じる事ができた。

3. イラン人の他国に対する意識

次に、イラン人が他国の人々や文化をどのように捉えているのかということに関して感じたことを述べる。特に、イラン人が考えるアメリカと日本に着目したい。まずアメリカに関しては、アメリカとイランは外交上良い関係を築けているとは言い難い。それはイラン市民の生活にも反映されており、アメリカ発のブランドである Subway や KFC などはイランの街中では見ることができない。その代わりに、Subway と同じ色のロゴを使用した「Freshway」があったことはインターネットでは得ることのできない発見であり、個人的に面白いと感じた。また現在、イランでは、インターネット規制により、Facebook や Instagram などのアプリは使用できない状況だが、VPN を介してそのようなアプリを使用しようとする市民がほとんどである。そのため、イラン市民によるアメリカ人への認識はポジティブなものが多く、アメリカに憧れるイラン人は多いそうだ。以上のことから、現在のイランとアメリカの外交関係と、市民同士の互いの国に対する認識は異なるものではないかと感じた。

そして、イラン人が日本に対して抱くイメージもポジティブなものがほとんどであった。どこから来たのかと聞かれた際に日本人と回答すると、態度が好意的なものに変化することが多かったと同時に、日本の炊飯器や漫画はイラン国内でも身近なものであるそうだ。

4. おわりに

以上、私が実際にイラン短期研修プログラムを通して感じたことを述べた。イスラーム教文化の国に滞在したことは自分にとって初めての経験で、非常に刺激的であった。そしてイランの人々はみんな温かく、素敵な出会いの連続であった。

このような素晴らしい機会を与えてくださった笹川平和財団をはじめ、SIR、イランで出会った全ての人々に心から感謝すると同時に、今後もイランの情勢には着目していきたい

たい。

(なお本所感は、執筆者個人の見解です)